

令和5年度 年間授業計画

都立第一商業高等学校

教科・科目	商業・ソフトウェア活用	単位数	3	対象学年・組	2学年B・C・D・E・F組
教科書 使用教材	「ソフトウェア活用」実教出版 「Excelで学ぶ全商情報処理検 定テキスト2級」実教出版 「情報処理検定1・2級模擬試験 問題集」実教出版				
	教科担任				

1. 目標

21世紀で活躍するビジネスパーソンの育成を目指す。

ソフトウェアを活用して有用な情報を導き出すために、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウを効果的に学ぶ。

2. 学習内容と学習上の留意点

学期	指導内容	具体的な指導目標	学習上の留意点	予定時数
1 学期	1 企業活動とソフトウェアの活用 2 情報通信ネットワークの活用 3 表計算ソフトウェアの活用	・ソフトウェアの活用 ・ソフトウェアの進化 ・情報通信ネットワークの活用 ・情報資産の保護 ・情報の集計と分析 ・オペレーションズ・リサーチ ・手続きの自動化	全商情報処理検定 合格に向け、実習及 び問題演習を行う ネットワークに関する 知識を学ぶ 表計算ソフトウェアに 関する知識を深める	31
2 学期	1 検定試験に向けての学習 2 データベースソフトウェアの活用 3 業務処理用ソフトウェアの活用	・合格点を目指す ・ビジネスとデータベース ・データベースの作成と操作 ・手続きの自動化 ・データベースの構造 ・SQLの操作 ・グループウェアの活用	全商情報処理検定 合格に向け、実習及 び問題演習を行う データベースについて 知識を身に着ける	31
3 学期	1 検定試験に向けての学習 2 情報処理システムの開発	・合格点を目指す ・システム開発の基礎 ・アルゴリズムの基礎 ・情報システムの開発演習	全商情報処理検定 合格に向け、実習及 び問題演習を行う	18

配当時間は一応の目安であり若干の増減はある。

3. 授業を受ける上での注意

- ・演習課題の提出を義務付ける。評価の際には、内容とともに提出状況も重視する。
- ・教科書および問題集、プリントを利用する。
- ・提出物は期日を厳守し、必ず提出するよう指導する。

4. 評価の観点・方法

- ・テスト、授業の出席状況や態度・意欲及び課題等の達成状況などを総合的に判断して評価する。
- ・提出物、日ごろの授業に取り組む姿勢をもとに総合的に評価する。